



りんご生産情報第13号
(10月25日～11月6日)

令和7年10月24日発表
樹上選果マン
青森県「農林水産力」強化本部



ふじの収穫は有袋果が10月30日頃、無袋果が11月4日頃から！
徹底した山選果で、モモシンクイガなどの被害果を混入させない！！
鳥害・風害対策は万全に!!!

I 概 要

10月21日現在の果実肥大は、園地でばらついているが、概ね平年並である。

ふじの熟度は、平年並であることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月30日頃、無袋果が11月4日頃からと見込まれる。ふじの熟度の進みからみて、王林の収穫も平年並の10月29日頃からと見込まれる。

園地によりビターピットやつる割れの発生が見られている。適期収穫、適期販売を厳守する。

山選果では障害果やモモシンクイガなどの病害虫被害果が健全果に混入しないよう徹底して選別する。

果実疫病の感染を防ぐため、果実に泥が付着しないように注意する。反射資材を片付ける際に土を飛散させたり、収穫した果実を長く野積みしない。

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。

強風に備え、防風網の点検、補強などの風害対策をしっかり行う。

報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

ふじの果実肥大は園地でばらついているが、概ね平年並である。

○果実肥大 (10月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	ふじ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	8.5
	平 年	8.8
	前 年	8.8
	平年比	97
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	8.5
	平 年	8.6
	前 年	9.1
	平年比	99
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	9.2
	平 年	8.8
	前 年	9.2
	平年比	105
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	8.9
	平 年	8.8
	前 年	9.5
	平年比	101
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	9.1
	平 年	8.6
	前 年	9.4
	平年比	106

注 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測調査データ

(2) 「ふじ」の果実形質調査結果

10月16、17日に県が行った「ふじ」の果実形質調査の結果では、最大横径から換算した玉別分布割合は、32玉以上と50玉以下が平年を上回り、36、40、46玉が平年を下回った。

○ふじの玉別分布割合、平均横径、着果率（全県）（調査月日：10月17日、18日）

区分	玉別分布割合 (%)					平均横径 (mm)	着果率 (%)
	32玉以上	36玉	40玉	46玉	50玉以下		
本年	20.3	19.9	35.1	11.3	13.5	85.9	30.9
平年	18.2	21.6	40.4	12.1	7.7	86.5	29.8
前年	39.0	21.8	26.6	7.5	5.1	89.4	35.2

注1 調査地点：30地点（津軽26地点、県南4地点）

2 玉別横径：32玉以上（92mm以上）、36玉（91～88mm）、40玉（87～82mm）、46玉（81～79mm）、50玉以下（78mm以下）

3 平 年：1999年～2024年の20か年平均。うち2012年～2017年は欠測。

(3) 果実熟度

10月19日現在、無袋ふじは平年値と比較して、酸度は高く、ヨード反応はやや高く、糖度は同程度、硬度、着色指数、蜜果率及び蜜入り程度は低い。総合的にみて、熟度は平年並である。

有袋ふじは平年値と比較して、ヨード反応は同程度、硬度、糖度、酸度及び着色指数は低い。総合的にみて、熟度は平年並である。

○ふじ（無袋）の熟度の進み

(調査月日：10月19日)

地域	年	果重(g)	着色指数	硬度(ポンド)	糖度(%)	酸度(g/100ml)	ヨード反応指數	蜜果率(%)	蜜入り程度
黒石 (りんご 研究所)	本年	324	2.0	14.9	13.5	0.419	3.1	0	0
	平年	328	2.8	15.7	13.5	0.399	2.8	71	0.8
	前年	323	2.1	14.4	14.0	0.307	2.8	33	0.3

注1 平年：2001年～2020年の20か年平均

2 着色指数：0～5（大きい数値ほど着色良好）

3 ヨード反応：ヨードでんぶん反応指數0～5

（小さい数値ほどでんぶんが少ない）

4 蜜入り程度：0～4（大きい数値ほど蜜入りが多い）

○ふじ（有袋）の熟度の進み

(調査月日：10月19日)

地域	年	果重(g)	着色指数	硬度(ポンド)	糖度(%)	酸度(g/100ml)	ヨード反応指數	蜜果率(%)	蜜入り程度
黒石 (りんご 研究所)	本年	309	2.4	14.7	12.5	0.353	2.8	0	0
	平年	320	3.3	16.1	12.9	0.391	2.8	40	0.4
	前年	315	2.7	14.4	13.3	0.285	2.6	17	0.1

注1 平年：2003年～2020年の18か年平均

2 除袋日：9月19日外袋、23日内袋

(4) 作業等の進み（10月21日現在）

ジョナゴールド、シナノゴールドなどの収穫が行われている。

ふじの葉摘み、玉回しなど着色手入れが行われている。

2 作業の重点

(1) 晩生種の収穫

ア 王林、ふじ

ふじの熟度は平年並であることから、収穫始めは黒石で有袋果が10月30日頃、無袋果が11月4日頃からと見込まれる。ふじの熟度の進みからみて、王林の収穫も平年並の10月29日頃からと見込まれる。

本年は夏期の高温に加え、6月～7月の少雨、8月の多雨によりビターピットが発生しやすい条件にある。また、収穫時期が早すぎると貯蔵後にビターピット

ややけ病の発生が心配され、収穫時期が遅すぎるとつる割れの発生が増加するほか、貯蔵中に内部褐変の発生が懸念されるので適期に収穫する。

王林、ふじの収穫時の標準指標

品種	地色	硬度 (ポンド)	糖度	ヨード 反応	蜜入り程度	食味
王林	4~5	14~16	13%以上	2~3	—	3.5以上
ふじ有袋	—	14~16	13%以上	2程度	1程度	3以上
無袋	—	13~16	13.5%以上	2以下	2以上	4以上

注1 地色：果実カラーチャート・リンゴ・王林の指数1（濃緑色）～7（黄色）

2 食味：指数1（未熟）～5（非常に良好）

イ 星の金貨、シナノゴールド、ぐんま名月

収穫時期の判断が難しいので、「収穫時の標準指標」を目安に「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」を利用して適期に収穫する。

ぐんま名月は、果肉の軟化が早く、蜜褐変の発生が多いので年内販売とする。

星の金貨、シナノゴールド、ぐんま名月の収穫時の標準指標

品種	硬度	糖度	ヨード反応	食味
星の金貨	14~16ポンド	14%以上	2.5以下	4以上
シナノゴールド	14~16ポンド	14%以上	1.5以下	3.5以上
ぐんま名月	12~16ポンド	14%以上	2以下	3.5以上

（2）山選果の徹底

山選果は、十分な明るさの下で、果実全体を確認して行う。

日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、収穫した果実は徹底して選別する。特にモモシンクイガによる、がくあ部付近の食入痕や滴痕を見逃さないように注意する。

ナミハダニ越冬成虫の果実への寄生がみられる園地では、被害果を選別し、出荷前にエアダスター処理等で適切に処理する。なお、エアダスター処理は害虫が飛散する恐れがあるため、処理は選果・こん包場所と別の場所で行う。

リンゴハダニの越冬卵やカイガラムシ類など、エアダスター処理で除去できない場合は腰の強い絵筆を短く切ったもの等で搔き取る。

また、本年はナシマルカイガラムシや果樹カメムシの被害が見られているため、注意して選別する。

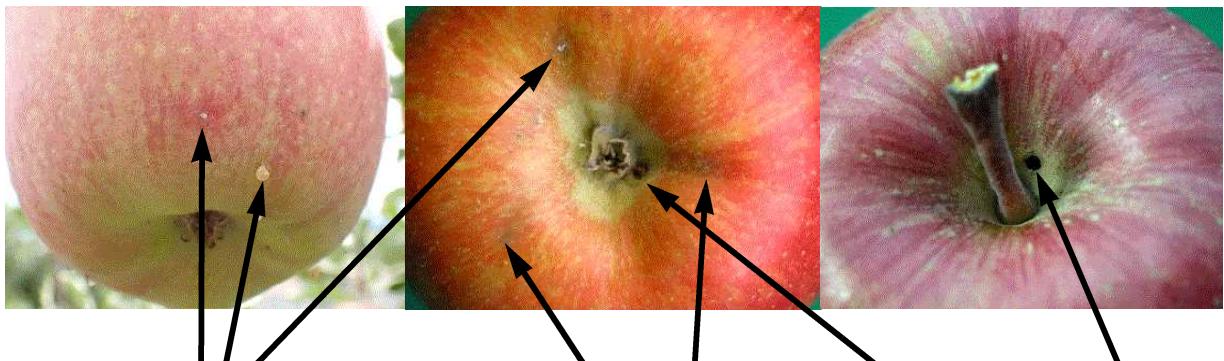


図1 モモシンクイガ幼虫の食入痕から垂れた滴の痕(滴が乾燥したもの)

図2 モモシンクイガ幼虫の食入痕

図3 モモシンクイガ老熟幼虫の脱出口



図4 ナミハダニ越冬成虫
(オレンジ色)



図5 リンゴハダニ越冬卵
(赤褐色)



図6 ナシマルカイガラムシの被害果



図7 カメムシによる被害果

(写真提供：(地独)青森県産業技術センターりんご研究所)

(3) 収穫した果実の管理

収穫した果実は、すみやかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

(4) 果実疫病対策（おそ疫病）

反射資材を片付ける際は、土を飛散させないようにし、りんご樹にかけて干さない。収穫用のかごや箱の土はあらかじめ洗い落としておく。

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入しない。収穫した果実は長く野積みをしない。

(5) 炭疽病対策

発病果をそのまま樹上に放置すると降雨などで下枝の健全果に感染が拡大するので、見付け次第必ず摘み取り、土中に埋める。

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(6) 輪紋病対策

発病果は見付け次第摘み取り、土中に埋める。

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができる細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

(7) 腐らん病対策

収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

腐らん病の発生が多い園地では、収穫後ができるだけ早い時期に、トップジンM水和剤1,000倍、ベンレート水和剤2,000倍のいずれかを必ず散布する。

枝腐らんは、見付け次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、再発病斑を含め、見付け次第、次のいずれかの処置を行う。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>



QRコード1：
トップジンM
オイルペースト



QRコード2：
バッチャレート



QRコード3：
泥巻き法

(8) シンクイムシ類対策

被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、被害果は見付け次第摘み取り、7日以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

(9) 鳥害対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、

防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 防鳥糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを使用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は

慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合
わせながら短期間で変えるようにする。

(10) 風害対策

強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行なう。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

3 今後の作業（11月6日～）

- (1) 晩生種の収穫
- (2) 病害虫対策
- (3) 風害、鳥害対策
- (4) 野ネズミ対策
- (5) 雪害対策
- (6) 堆肥づくり、酸性土壌の改良
- (7) 園地清掃

—————《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（5月1日～11月30日）》—————

- ・1人での作業ができるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・収穫した果実や残さ、弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・詳細は県ホームページをご確認ください。
https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html

—————《 秋の農作業安全運動展開中！（9月～10月）》—————

いつもの作業に、いつも以上の注意を。

脚立作業は、安定した場所にしっかりと固定し、天板上の作業は行わず、脚立から身を乗り出さないようにしましょう。

機械作業は、ほ場の出入り口などの段差や傾斜による転倒に注意するとともに、安全ベルト着用など、転落対策を徹底しましょう。

—————《 「あおり9」の生果実流通 》—————

現在、「あおり9」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和7年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和7年10月28日以降は、「あおり9」で販売してください。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう！

次回の発行は令和7年11月6日（木）の予定です。